

[論文]

イエスの友会と賀川豊彦による 神の国運動（1）

——イエスの友会の結成——

黒川知文

〈目次〉はじめに

1. イエスの友会の設立の背景
2. イエスの友会の結成
3. イエスの友会のモデル
4. イエスの友会の組織
5. イエスの友会の会員

はじめに

賀川豊彦（1888-1960年）は若き日、神戸の貧民街に身を投じて貧しい人々の救済に専念した。壮年時代には、労働組合運動、農民運動、協同組合運動、無産政党樹立運動に献身し、関東大震災が発生するや、東京にて、罹災者救済やセルツメント事業に力を尽くした。また生涯を通じて日本と世界にキリスト教の伝道を行い、戦後は伝道と著作のかたわら世界連邦運動を提唱、指導した。これらの諸活動を継続する間に宗教、哲学、経済、社会、文明批評、随筆、小説の作品を多数発表した。彼の事業は関西、関東を始め全国に亘り数多くの同志を組織して行われ、その運動は広範な規模において展開された。

賀川の活動は、1914年～1916年米国留学した時にマンハッタンでデモ行進に遭遇して労働組合運動を知ったことにより大きく変化した。1917年に帰国後、我が国最初の労働組合）である友愛会の活動に参加した。1921年には神戸の川崎・三菱造船所大争議を指導したが、拘留され失敗に終わる。やがて、労働運動の主導権を急進派（マルクシスト）が握り、「無抵抗・非暴力・議会主義」の賀川は退いた。



すでに32歳から40歳にかけて、賀川は協同組合運動に重心を移していった。1920年には神戸購買組合、1921年には灘購買組合など設立し、1923年の関東大震災に際しては、本所で救援活動を行った。そして江東消費組合を設立し、その他、幅広い協同組合運動を展開していった。⁽¹⁾

1921年にはイエスの友会を結成して百万人救霊計画を設定して、全国的大衆運動である「神の国運動」を1928年から32年にかけて展

開した。

1928年から5年間をかけて実施された神の国運動は、日本史上、最大の大衆伝道活動である。賀川豊彦は、さらに戦後は新日本キリスト運動も実行し、ラクーア音楽伝道にも講師として協力した。（図1参照）

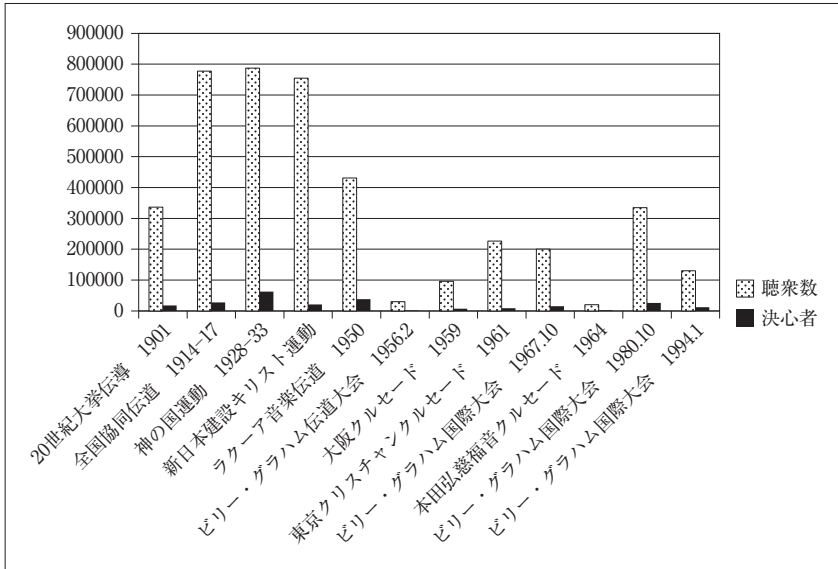


図1 日本史における大衆伝道活動

出典：拙著『日本史におけるキリスト教宣教』教文館 2014年、439頁

イエスの友会はどのようにして設立され、どのような活動をして、賀川の「神の国運動」に関わっていったのであろうか。

イエスの友会に関する研究は、南香重による先駆的の労作があるだけであり、ほぼ未開拓な状況にある。本稿では、同論文を参考にして、主に同時代に発行された『火の柱』、『雲の柱』、『神の国新聞』を史料として分析して、考察する。

1. イエスの友会の設立の背景

1921年神戸の三菱造船所・川崎造船所における大争議において、労働者による工場自主管理や約3万5千人を組織した大規模デモなどを指導するが、示威行動中の労働者と警官隊との衝突により、賀川をはじめ百数十人の組合幹部が一斉に逮捕され、戦前最大の労働争議は労働組合側の敗北に終わった。

川崎三菱労働争議での敗北は、霊的運動へ移行する転換点であった。

第一に、賀川は、社会的転換のためにはまず精神的転換が不可欠であると考えた。第二に、賀川は、教会のあるべき姿は、超教派団体であり、社会的弱者に実質的な援助をし、平信徒の指導者によるものと考えていた。

2. イエスの友会の結成

1921年10月5日改正の水曜日の午後、奈良の猿沢池畔にある料亭菊水楼（1891年創業（図2参照））において、日本基督教会に属する賀川ら14名の牧師が集まった。賀川ハルは傍聴者として陪席していた。菊水楼の表看板には「日本基督教会教役者大会」と大書されていた。集まった牧師は、賀川と同じ



図2 菊水楼（著者撮影）

明治学院出身者であった。祈祷会の後に、彼らは、新たな宗教運動をするための団体を結成することを決議した。

「わが誠命は是なり、わが汝らを愛せしごとく互に相愛せよ。人その友のために己の生命を棄つる、之より大なる愛はなし。汝等もし我が命ずる事をお

こなわば、我が友なり」(ヨハネ伝福音書15章12-14節)に基づき吉田源治郎(1891-1984年)が「イエスの友会」と命名した。吉田は、三重県の宇治山田町に生まれ、17歳の時にカンバーランド長老キリスト教会宣教師に導かれて洗礼を受けた。そして伝道者になる決意をして、家族の反対を押し切って上京して明治学院神学部に進学した。その後渡米して、ユニオン神学校とオーバン神学校に4年間留学して、宗教教育と社会指導を学んだ。帰国後、日本基督教会の教役者になって活動していた⁽³⁾。

3. イエスの友会のモデル

新しい修道会を設立したアッシジのフランチェスコ(Francesco d'Assisi 1182-1226年)は、男子修道会である第一会、女子修道会である第二会を創設し、さらに在俗信者の会である第三会を1221年に創設した。第三会は俗人の修道会であった。

1221年のフランチェスコ会則は以下の通りであった。

「われらの主イエス・キリストの福音を守り、服従のうちに生き自分の物な何も持たず、常に貞節のうちにあらんことを。修道士は頭巾付き上着1枚だけ持ち、履物は必要な者だけに許される。衣服は着古したもので、袋地か、ぼろでつぎはぎさるべきこと。高価な衣装を着、美味な飲食物を食べている人を見ても軽蔑したり裁いたりしてはならず、むしろ自分自身を裁き軽蔑せよ。直接にせよ間接にせよ金銭を受け取ってはならず、何物も所有せず、清貧と謙譲のうちに主に仕え、喜捨を請うことを恥じず、清貧を友とせよ」

イエスの友会のモデルとなった第三会は、一般社会で、家族と仕事をもって修道的な奉仕の生活をおくるための修道会であった。すなわち、世俗にありながら、托鉢修道士や修道女と同じ理念にしたがい、同じ誓願を立てたいと望む信徒のためにつくられた団体であり、この会は、1447年、教皇ニコラウス5世の許可を受けている⁽⁴⁾。

さらに、イエスの友会は、先住文化を否定せずにキリスト教に取り込んで

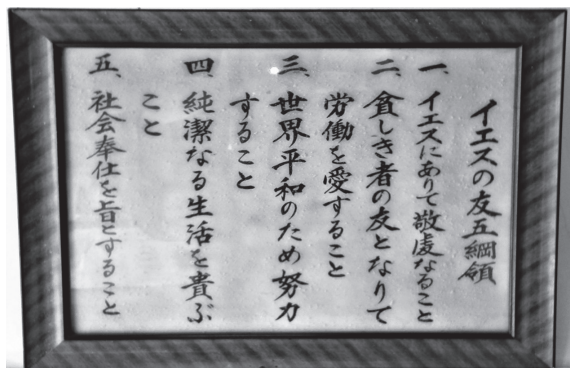


図3 「イエスの友五綱領」香川県豊島教会（著者撮影）

いくというイエズス会の宣教理念である適応主義も採用した。そして、「五綱領」を以下のように決議した。

- 1 イエスにありて敬虔なること
- 2 貧しき者の友となりて労働を愛すること
- 3 世界平和のため努力すること
- 4 純潔なる生活を貴ぶこと
- 5 社会奉仕を旨とすること

「敬虔、労働、平和、純潔、奉仕」の「五綱領」が、イエスの友会の活動目標になった。（図3参照）

4. イエスの友会の組織

運営は、数人の顧問と事務局長によってなされ、中央委員会（常任委員）と各支部（10人以上）がおかれた。

会員は、第1種が五綱領に同意し、従う者、第2種が上記に加えて、会の維持費を支払う者と規定された。

会報は、『火の柱』と命名され、月報であり第2種会員と終身会員に配布された。

会員になるためには、会員2名の推薦と以下の5項目に同意することが必要であった。

- ① 会員は純真なる魂を持って、その日常生活の裏にイエスの精神を織りなし、会の綱領、主張、申合せ及び決議事項を遵守し、各自会員としての使命達成の為他の会員と協力して社会の各方面にあつて実際に奉仕すること
- ② 会員は原則として教会及び他のキリスト教団体を支持すること
- ③ 会員は入会と同時に、その所属教会に本会会員たることを表明すること
- ④ 会員は鮮くも本部又は所属支部へ自己消息並びに活動報告すること
- ⑤ 会員はよりよき奉仕と祈りの生活をなす為に規定された以下の3つの読書段階に順つて、示された書を読むことが奨められた。

第1：新約聖書、天路歷程、鮮血遺書、基督の模倣、オーガスチン懺悔録

第2：旧約聖書、日本西教史上、下

第3：ユーセビウス信仰史上、下、ラルネデ教会史、基督教要義（カルヴァン）

賀川が『雲の柱』で記した「イエスの友必読書百種」によれば、宗教、哲学、文学、科学、歴史、教育、社会学、経済学の分野における代表的な著書、例えば、仏教經典、コーラン、『善の研究』、『万葉集』、『古今集』、『平家物語』等が挙げられている。キリスト教だけでなく広い教養、日本の伝統的精神に対する深い知識と理解を賀川がイエスの友会会員に要求していたことがわかる。⁽⁵⁾（図4参照）

- 一六、眞宗聖典
 - 一七、禪門二十四話集
 - 一八、懺悔錄 (オーガスチン)
 - 一九、アナロジ (バトラ)
 - 二〇、ガラテヤ書註解 (マルナンルーテル)
 - 二一、卓上叢談 (い)
 - 二二、懺悔錄 (ルソー)
 - 二三、宗教論 (シユラエルマツヘル)
 - 二四、宗教學 (マツクスシユニー)
 - 二五、耶蘇傳 (ルヤン)
 - 二六、懺悔錄 (トルストイ)
- 【哲學】
- 二七、プラトール全集
 - 二八、四書五經
 - 二九、倫理學
 - 三〇、マールカスオウレリヤスの瞑想錄
 - 三一、エペクテタスの教訓
 - 三二、傳習錄 (王陽明)
 - 三三、意思と現識としての世界 (シヨールペン)
 - 三四、純粹理性批判 (カント)

- 三五、純粹實踐理性批判 (カント)
 - 三六、歴史哲學
 - 三七、善の研究 (西田幾太郎)
- 【科學】
- 三八、人間の由來 (ダーウイン)
 - 三九、種の起源 (ダーウイン)
 - 四〇、趨異論 (ドヴリース)
 - 四一、石器時代の人類 (オスボルン)
 - 四二、哺乳動物の時代 (い)
 - 四三、蟻 (ホイラー)
 - 四四、遺傳 (ベートルン)
 - 四五、相互扶助論 (クロボトキン)
 - 四六、人間上進論 (トラモンド)
 - 四七、物質とエネルギー (ソツテイ)
 - 四八、相對性原理 (アインスタイン)
 - 四九、植物進化論 (スコット)
 - 五〇、中央亞細亞探險記 (スタイン)
 - 五一、科學臆說 (ポアンカレ)
 - 五二、科學範典 (ベアソン)
 - 五三、宇宙の進化 (ベアソン)

イエスの友必讀書百種

賀川豊彦

「イエスの友必讀書百種」は本所基督教産業青年會に於て毎朝食後の僅かな時間に於ける賀川先生の軽い談論から、先生の與の湧るよまゝに申された宗教、哲學、文學、科學等私共が常識として讀むべき書百種を筆録したものであります。順序も分類もなかつたのですが索引に便するため極く大きつぱに整理しました。(Y・K生)

【宗教】

- 一、舊新約全書
- 二、大藏經
- 三、リグヴェエタ (印度聖典)
- 四、コーラン
- 五、ウバニシヤツド
- 六、パカバツトギダ
- 七、シヤツクンターラ
- 八、マハマトラ
- 九、死の書 (埃及古典)
- 一〇、テオロギアゲルマニカ (獨逸神學)
- 二、完全の鏡 (聖フランシス)
- 三、碧巖錄
- 三、トーマスアキナスの神學 (ラオーロギア)
- 一四、ゼンダアベスタ
- 一五、基督に倣ひて (トーマスアケンピス)

【教育】

九、人間の教育

九三、リクロンとゲルトラード(ベスタロッチ)

九四、人類學的教育學(ミンテストリー)

【社會及經濟】

九四、資本論(マルクス)

九五、富國論(アダムスミス)

九六、婦人論(ビーベル)

九七、結婚と戀愛(エレンカイ)

九八、犯罪學(ロンブローゾ)

九九、民約論(ルソー)

一〇〇、國家と革命(レニン)

一〇一、國家論(ウイエルソン)

【文學】

- 五四、火星の研究 (フロラール)
- 五五、自然の聖書 (トムソン)
- 五六、イリヤードオデツセイ (ホーマー)
- 五七、エーニード (バーデル)
- 五八、英雄傳 (ブルターク)
- 五九、ソクラテス傳 (クセノフオシ)
- 六〇、萬葉集
- 六一、古今集
- 六二、平家物語
- 六三、マハマツトラ
- 六四、神曲 (ダンテ)
- 六五、天路歷程 (バンヤン)
- 六六、ロビンソンクルーソー
- 六七、アラビヤンナイト
- 六八、プアウスト (ゲーテ)
- 六九、ウイエルヘルムマイステル (リ)
- 七〇、ハムレット (セクスピア)
- 七一、ドンキホーテ (サバアンテス)
- 七二、ギタンジヤツ (タゴール)

【歴史】

- 七三、グランド (イブセン)
- 七四、草の葉 (ホイットマン)
- 七五、近世畫家 (ラスキン)
- 七六、ウエニス石 (リ)
- 七七、演説集 (ガンデー)
- 七八、ツアラッスタターは斯く語る (ニイチエ)
- 七九、タシタス羅馬史
- 八〇、ヘロドタス希臘史
- 八一、古事記
- 八二、日本書紀
- 八三、日本外史
- 八四、繪本太閤記
- 八五、フランス革命史 (カーライル)
- 八六、世界建築史 (ハガツア)
- 八七、近代繪畫史 (ムーラン)
- 八八、歐洲道德史 (レツキー)
- 八九、法皇史 (ランケ)
- 九〇、英文學史 (テーシ)

5. イエスの友会の会員

「五綱領」が決まり、1922年1月のイエスの友会機関紙『雲の柱』創刊号において、イエスの友会への加入を以下のように呼びかけている。

右記の綱領（「五綱領」）を遵奉する人は誰でも入会出来ます。事業としては、イエスの友会の人々が主となって、日本に一つの基督教小冊子運動を起す計画がある外、まだ何も決定していません。兎に角、密雲が垂れこめてゐる世界と日本の内に、祈によってつながる、かかる団結が生れたことは喜ばしいことです。いづれ追々と種々の具体的報告が出来やうと思ひます。入会希望の向きは、（もし所属教会のある方は其の教会名を書入れて）住所姓名職業をハガキにて御一報下さい。申込順に次号にて発表いたします。⁽⁶⁾

この呼びかけの結果、86名の入会者があつた。『雲の柱』には以下の記述がある。

本誌創刊号二於てイエスの友会の出生を報道して以来、響の声の応ずる如く先の諸兄弟姉から入会の通知に接しました。これは今日の時代にとっての一大祝福であります。純真なるたましひを有つ人々から成る如斯き純一な、イエスの結社が、我国に生じたことは、決して、無意義ではありません。漸を逐うて、私達の小さき群れは導きカルる儘に、成長發育して、遂にはイエスの在って地を嗣ぐ者とならう。私達は今暫く敬虔⁽⁷⁾に、つつしまやかに、其の行くべき方向を凝視したい。

1922年1月12日における入会者は、学生と牧師が多いことがわかる。（表1参照）

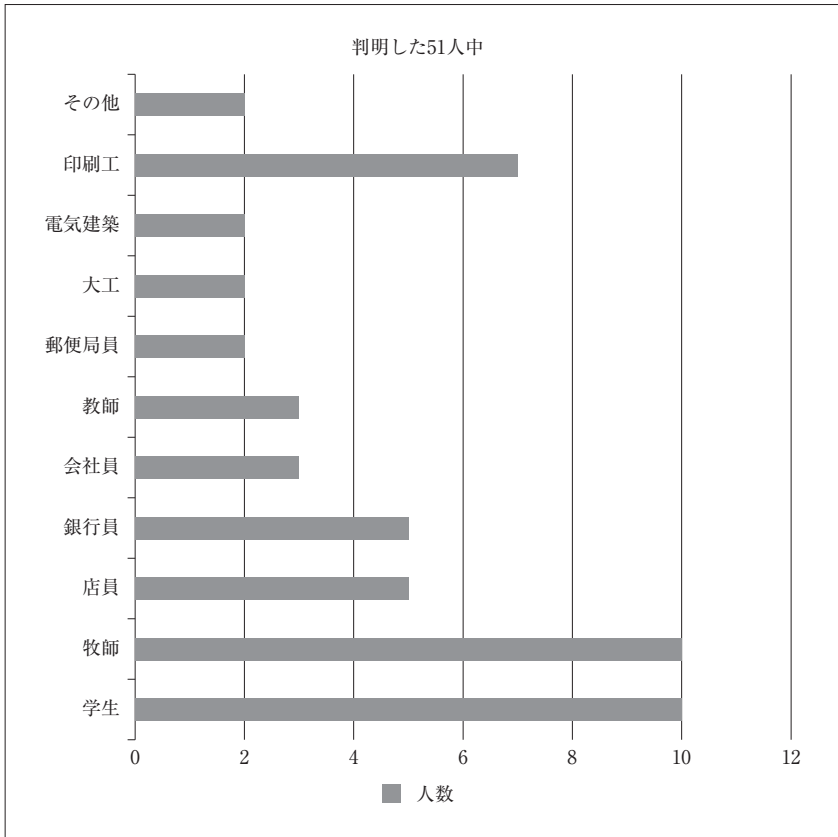


表1 1922年1月12日におけるイエスの友会会員の職業分類
出典：「イエスの友の消息」『雲の柱』第2号（1922年2月），104-106頁

同年3月11日の入会者は、学生と様々な職種の労働者が多いことがわかる。(表2参照)

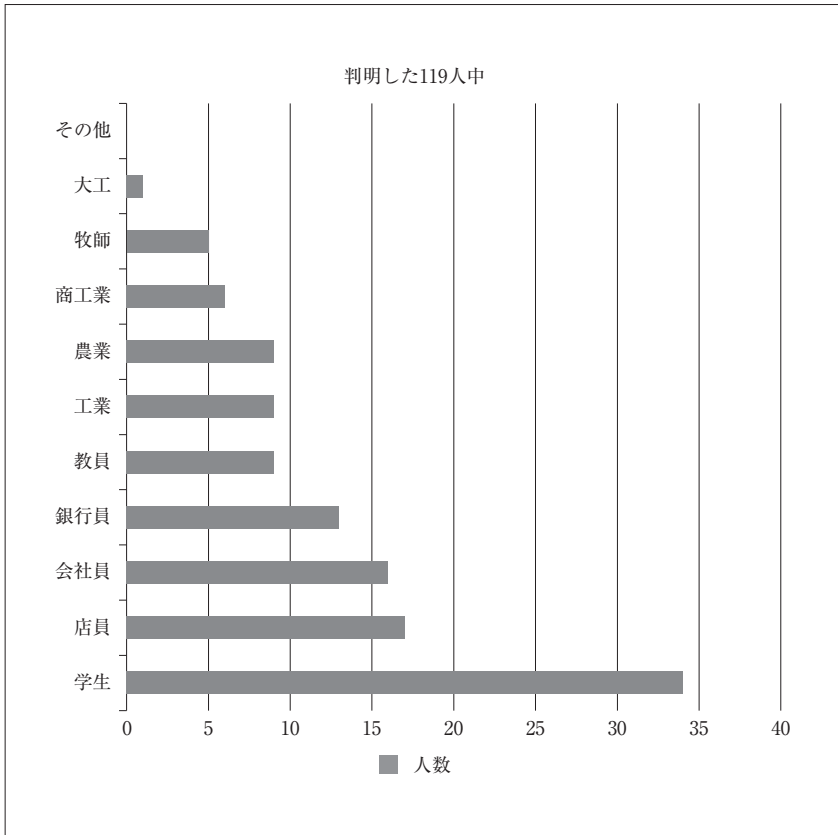


表2 1922年3月11日におけるイエスの友会会員の職業分類
出典：『雲の柱』第4号（1922年4月），91-92頁。

イエスの友会会員の居住地は、1922年1月12日判明した86人の分類からは、東京からの入会者がすでに多かったことがわかる。（表3参照）

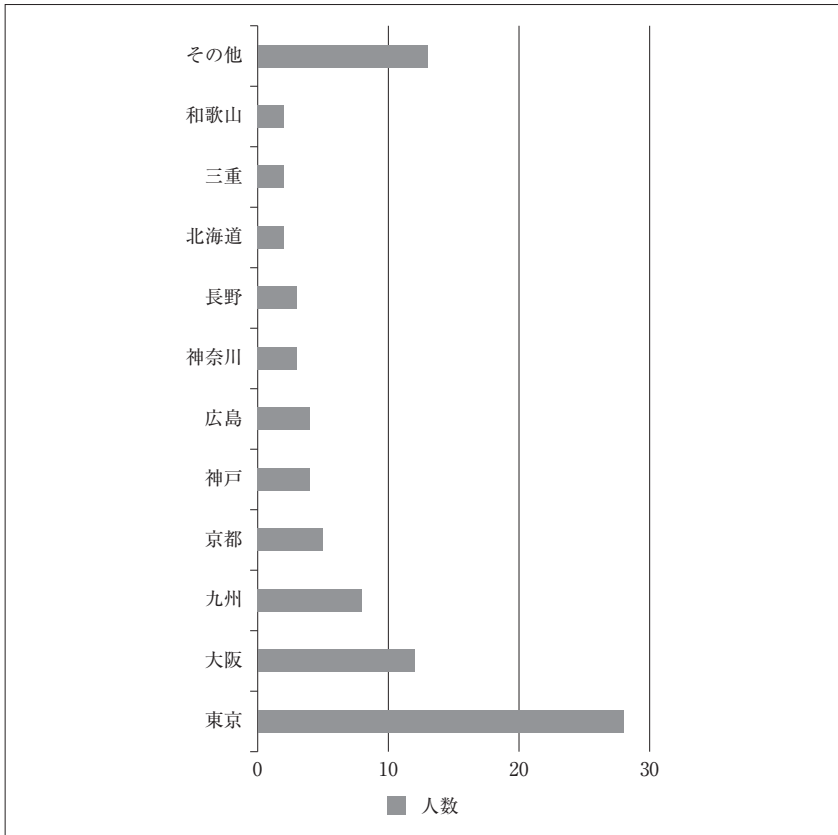


表3 1922年1月12日におけるイエスの友会会員の居住地分類
出典：「イエスの友の消息」『雲の柱』第2号（1922年2月），104-106頁

このように、イエスの友会の会員は、創設した時から、日本全国から集まり、多様な職種の職業に従事していたことがわかる。

〔注〕

- (1) 賀川豊彦記念松沢資料館ホームページからの引用.
- (2) 南香重「賀川豊彦とイエスの友会」『雲の柱』第18号（2004年）賀川豊彦記念松沢資料館館30-34頁.
- (3) 『日本基督教歴史人名事典』教文館 2020年, 858頁.
- (4) 『新カトリック大事典』研究社, 2002年.
- (5) 『雲の柱』第4巻（1925年4月）217-220頁.
- (6) 「イエスの友の消息」『雲の柱』創刊号（1922年1月）96頁.
- (7) 「イエスの友の消息」『雲の柱』第2号（1922年2月）103頁.

Friends of Jesus and Kingdom of God Movement by Toyohiko Kagawa (1)
Tomobumi KUROKAWA